

未来 mirai

一人一人が夢をもち
未来を生きる力のある子



琉球大学教育学部附属小学校

学校だより 第11号

発行 令和8年3月16日(月)

文責 校長 石川 博久



学校ホームページ

祝 第42期 6年生の皆さん 卒業おめでとうございます!

3月18日(水)は第42期99人の卒業式です。1~5年生は2/27(金)児童会の卒業式「千原感謝祭」で6年生の卒業を先にお祝いしましたので、その日は休日になります。ありがとうございました。

6年生は、先週までに卒業式に向けて、式の流れの確認や入退場、歌、卒業証書授与の仕方等を練習しています。卒業式は小学校最後の教育活動になります。感謝の卒業式にしていきたいと思います。



12年間 姉と私を支えてくれた『ランドセル』ありがとう!!

卒業を前に「ランドセルにお礼を言いたいです」と笑顔で話す児童がいます。それは、6年生の北城 愛利さんです。その理由を先週校長室でお話をしながら聞いたところ、愛利さんのランドセルを通じた出来事やランドセルに対する素敵な思いを知ることができました。今日はそのことを千原っ子の皆さんにもお伝えします。

小学校を卒業する6年生のほとんどが、親から買ってもらったランドセルを6年間大切に使っていますので、ランドセルに対する感謝の思いは持っていると思いますが、愛利さんのランドセルに対する思いは、他とは違い、特別な思いがありました。実は愛利さんのランドセルは10歳上のお姉ちゃんが使っていたランドセルで、愛利さんが使った6年間と合わせて12年間、北城姉妹とともに、学校に通ったこととなります。お姉ちゃんが卒業した後、両親がそのランドセルを大切に保管してくれていたそうです。大切に保管していたとはいえ、6年間使ってきたので、古くなっていったのは当然ですが、入学時、愛利さんは迷わずそのランドセルを持つと決め、肩ベルトや背あての部品を修理しながら大切に使ってきたそうです。

しかし、友達から悪気はなかったと思いますが、「愛利のランドセル、ボロボロだね」と言われたことがあり、その時は正直ショックだったようです。それでもこのランドセルと一緒にお姉ちゃんも6年間頑張って小学校生活を送ってきたんだと思うと、私もこのランドセルを大切に最後まで一緒に卒業したいという思いが強くなったようです。



愛利さんは「きっと、このランドセルが私の小学校生活における楽しかったことや大変だったことなどの歩みを一番側で見てくれて、頑張って取り組んでいる私に見えないパワーを送って支えてくれていたのかもしれない。見た目はボロボロだけど、私にとっては、支えてくれる友達のような大切な大切な宝物なんです。」と答え、続けて、「校長先生が以前お話の中で、『物を大切にすることは、その物を買ってくれた人や、作ってくれた人のことを大切にすることになるんだよ』と言っていた言葉を思い出します。本当にそう思います。私の大切なランドセル、12年間、お姉ちゃんと私を支えてくれてありがとう。そしてそのランドセルを買ってくれて、大切にしてくれたお父さん、お母さん、ありがとう。」とランドセルと家族に感謝の気持ちを述べていました。

ランドセルを背負いながら、両親や家族への感謝の気持ちをもって小学校生活を送ってきた愛利さんの思いと行動に感動しました。千原っ子の皆さんも、愛利さんのように、物や人を大切にできる人になってもらいたいと思いました。愛利さんとお話をしていて心から幸せな気持ちになりました。ありがとうございました。

愛利さん、ランドセルさん、卒業おめでとうございます。